

※黎明(れいめい)：明け方、夜明けの意

特集：小児医療の充実に向けた取り組み  
話題：医師修学資金貸与制度について ほか



7/28開催 オープンホスピタル・ヘリポート見学。三科院長と参加者の高校生。

トピック

院長  
三科 武



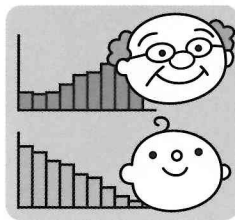
今、隣にいる人が倒れたら助けられますか？  
人間は4分間の循環停止で脳に障害が生じると  
言われます。循環障害を起こす原因疾患の中で、  
心肺蘇生処置の効果が注目されている疾患  
が不整脈です。発症時は可能な限り早く人工呼  
吸などの救命処置とAEDによる除細動  
を行わなければなりません。隣にいる  
人・バイスタンダーによる救命処置で助  
かる事例が見られます。鶴岡市消防本部  
救急統計によると、救急隊が蘇生処置を  
行った年間約200例の内、心拍再開し  
た方は1/4であり、救急隊到着時に、  
バイスタンダーにより心肺蘇生法が行わ  
れていたのは約半数という報告がありま  
す。ぜひ隣の人の助けになるよう、皆さん  
もこの手技に慣れて頂きたいと思ひます。  
今年も高校生による病院見学実習・オ  
ープンホスピタルを開催しました。将来  
医学系の大学に進もうという希望を持っ  
た高校生16名が参加してくれました。こ  
こでも救命処置の実際を体験してもらい  
ました。実際に行うことは一生のうち一  
度あるかないかだと思ひますが、真剣に  
取り組んでもらいました。そのほかシミ  
ュレーターを使った内視鏡実習、手術体  
験や検査体験をしてもらいました。これを機に  
医学系進路に対し強いモチベーションを持つ  
勉強に励んでもらいたいと思ひます。いつかこ  
の中から将来の鶴岡の医療を担ってくれる人が  
現れることを楽しみにしております。

救急救命処置を身につけよう

# 医療の充実に向けた取り組み

## 少子高齢化時代の到来

みなさんご存知のように、子どもの出生数はどんどん減少していて、日本全体で年間100万人を割る勢いになっています。それに相反するよう、65歳以上の高齢者人口は年々増加し、日本はまさに少子高齢化時代のまっ只中です。その傾向はとくに地方において顕著で、鶴岡市も例外ではありません。



## 少子化時代だからこそ子育て環境が重要

鶴岡市では「子育てするなら鶴岡」をスローガンに、結婚・妊娠から子育てまで「切れ目ない支援」を行っています。少子化だからこそ子どもが安心して暮らせる地域づくりが必要で、育児休業制度や保育サービス等に加えて、小児医療の充実も子育て世代の若い人たちには心強い味方になります。実は荘内病院は、以前よりこの小児医療の分野に力を注いできました。

## 新生児医療について

当院が赤ちゃん専門の医療を始めたのは昭和58年で、未熟児室3床の診療からでした。当初は現在のような医療機器や薬剤がなく、小さな赤ちゃんを助けるのはとても難しい時代でしたが、次第に機器が高性能になり新しい薬剤も出現して、体重が1,000gにも満たない赤ちゃんを助けることが可能になりました。そして平成15年の新病院移転を契機に、庄内地域唯一の新生児治療センターを開設しました。生まれたばかりの重症な赤ちゃんを治療するNICU（新生児特定集中治療室）3床と、NICUで急性期を乗り越えた赤ちゃんを引き続きケアしていくGCU（新生児回復治療室）4床でスタートし、庄内全域から未熟児が生まれそうなお母さんや緊急の処置が必要な赤ちゃんを受け入れています。平成22年4月に山形県より地域周産期母子医療センターの指定を受け、また平成26年度にはNICU6床・GCU6床に増床して、更なる需要に应运っています。新生児治療センタ

ーでは、小児科医が毎日当直し、NICU専任の看護師とともに24時間体制で赤ちゃんを見守っています。

## 小児救急医療について

当院の小児救急患者は非常に多く、年間7,000人に達した年もありました。にこふるでの休日および平日夜間診療などの効果があつて、平成22年をピークに減少しています。それでも入院を必要とするような小児患者は当院に集中しますので、NICU当直をしている小児科医が時間を決めて対応しています。さらに24時間365日、常に小児科医が院内に待機していますので、時間外でも当直医より要請があれば迅速に対応できます。



小児入院棟入口。エレベーターを降りると、つちだよしはる先生のくまくんがお出迎え

# 小児



## 小児専門入院棟と 日中一時支援事業について

本年7月より、4階東入院棟を15

歳未満の小児専用の独立病棟にしました。少子化時代だからこそ子どもの診療を大切にすることがあることから、小児専用の入院棟に変更したのです。そこでは小児科の患者だけでなく、小児外科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科などの外科系診療科の子どもたちもすべて引き受け

ます。もちろん小児専門の看護スタッフが24時間三交替制で対応しますし、小児科医が常に院内に待機していて病状の急変に対しても素早く対応できます。そして子どもたちのよい良い療養環境を作るべく、保育士さん1名を小児入院棟に配置しました。不慣れな入院生活をいくらかでも楽しく過ごしてもらおうよう、日々頑張っています。さらに日中一時支援事業（レスパイト入院）も開始しました。これは、NICUへの長期入院または同等の症状（気管切開等の呼吸管理を必要とする）をもつ基本的に15歳未満の小児を対象とし、在宅介護をしている重症児の家族の休憩などを目的にしています。原則日帰りですが、要相談で宿泊入院にも対応します。

このように当院では、小児医療の分野に力を入れ、少子化時代の大切な子どもたちの健康と元気を保障するよう、日々努力しています。これからも市民の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## 4階東小児入院棟の保育士を紹介します！



7月から小児入院棟に配属となりました、保育士の伊藤若奈です。主な業務は、様々な理由で一日を通しての付き添いが難しいご家族に代わって付き添いをする病児保育です。戻ってきたご家族からの「助かったっけ〜」の一言で、支えになれていることを実感します。

保育中はお子様一人一人の病状や発達に合わせた遊びを通して、入院によるストレスの軽減や気分転換を図っています。

ほかには、入院しているお子様が遊べるプレイルームの環境整備や飾り付けも担当しています。今後は季節の行事の開催も行う予定です。

入院されたお子様とご家族の皆様、少しでも安心して過ごしていただけるよう、それぞれの気持ちに寄り添った関わり方を心がけていきたいと思っています。



廊下には手作りの飾り



清潔に保たれたプレイルーム

## 形成外科外来のご案内

診療体制が変更になりましたのでお知らせします。

変更後

	月	火	水	木	金
午前		1 診			1 診
午後		予約のみ			予約のみ

# ～医師確保に向けた取り組み紹介～

## 医師修学資金貸与制度

鶴岡市立荘内病院医師修学資金貸与は、当院に勤務する医師の確保を目的として、医師を目指す医学生を経済的に支援する制度です。

大学卒業後一定の期間当院に勤務いただければ、貸与した資金の返還を免除するというもので、現在鶴岡市出身の医学生8名が利用しています。

貸与の対象となるのは、

- ①大学卒業後、医師として当院に勤務する意思を有していること
  - ②大学の医学を履修する課程に在学していること
  - ③原則として、他の修学資金等の返還の債務がないこと
- ①～③の条件を満たしている方となります。

貸与までの流れや返還免除の要件など、詳細については、

当院ホームページ→病院のご案内→医師修学資金貸与 をご覧ください。

総務課企画財政係 電話0235-26-5111(代表) Email:soumu@shonai-hos.jp

## 平成27年度 山形県 鶴岡市立荘内病院 医師修学資金貸与医学生募集

鶴岡市立荘内病院医師修学資金貸与は、当院に勤務する医師の確保を目的として、医師を目指す医学生を経済的に支援する制度です。大学卒業後一定の期間当院に勤務いただければ、貸与した資金の返還を免除いたします。詳しくは募集要項(裏面)をご覧ください。

### 申込資格

大学の医学を履修する課程に在学している  
大学卒業後、医師として荘内病院に勤務する意思を有している  
原則として、ほかの修学資金の返還の債務がない

### 貸与額 貸与の期間

年額200万円以内  
在学する大学の正規の修業年限まで

### 返還免除

大学卒業後2年以内に返還免除を取得  
医師免許取得後5年以内に荘内病院に医師として勤務  
荘内病院の左期期間が貸与を受けた期間の1.2倍に達する  
(5年に満たないときは5年と見なす)  
左期期間の帰属することができず(他の医療機関での研修等の期間は左期期間から除きます)

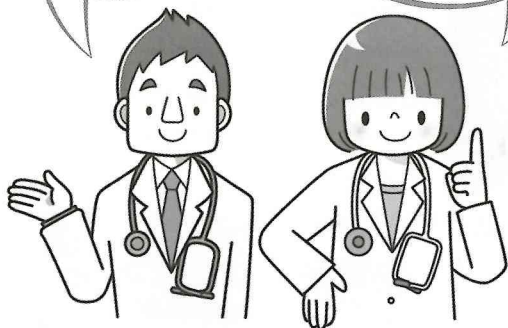
申込期間 平成27年4月1日(水)から 5月29日(金)まで(当日消印有効)

お問い合わせはこちらまで

〒997-8515 山形県鶴岡市泉町4番20号 鶴岡市立荘内病院総務課  
電話0235-26-5111(代) Fax0235-26-5110  
Email soumu@shonai-hos.jp ホームページアドレス <http://www.shonai-hos.jp/>

頑張る医学生を  
応援します!

修学資金貸与の  
来年度の募集は  
28年4月1日からの  
予定です!



## 医学生臨床実習の受入れ

当院では平成25年1月より、医学部の5・6年次に実施される臨床実習の連携病院として、山形大学と新潟大学の医学生を受け入れています。医師免許の取得前であり、診療に携わることができるのは基本的な医行為に限られますが、実際の医療現場を経験し、また、指導医や医療スタッフからの指導により、将来医師として患者さんの診療を行うための一助となっています。

- 病院憲章 高度・良質な医療と心のこもった患者サービスで地域医療を担う基幹病院
- 基本理念
  - ・診療圏域住民の生命と健康を守り、高度かつ良質な医療を提供し、地域医療機関との機能連携を強化しながら、基幹病院として地域医療の充実に努める。
  - ・プライバシーの尊重とアメニティーの向上に配慮し、患者が安心と満足が得られる、快適な療養環境の整備に努める。
  - ・医師や看護師をはじめ、病院で働く職員が一致協力し、心のこもった患者サービスの向上に努める。
  - ・医療従事者の教育と臨床研修を重視し、市民から信頼され、地域医療に貢献できる、質の高い医療人の育成に努める。
  - ・医療環境の変化に対応できる経営方針を確立し、安定した経営の基盤づくりに努める。

